



プロジェクトニュース



シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「コミュニティにかかる県議会事業計画担当者のおもい」号

2017 年 5 月 12 日号 (Vol.41)

2016 年 11 月、カンビア県およびポートロコ県の両県議会では、コミュニティのためのエボラ復興パイロットプロジェクトの実施に向け、実施計画の最終化を行いました。選ばれたパイロットプロジェクトは、教育環境改善のための学校建設、感染症に適切に対処するために保健施設の改修、エボラ出血熱の流行時に落ち込んだ地域経済の再興のための精米加工施設、農村道路の建設・改修工事と多様な事業が含まれています。県議会は、施設の整備だけではなく、地域住民による施設の利活用、維持管理など、事業の持続性を考慮し、計画を策定しました。

パイロットプロジェクトの実施準備は、段階的に様々な職員が関与します。プロジェクトの対象地域選定、コミュニティに対する社会状況調査、関連する統計情報収集はモニタリング・評価官や開発計画官が、施設計画、設計のための現況調査は、エンジニアと環境社会配慮官、とコアになる各職員を中心に作業が進められました。各施設の機能、設備等の検討作業は県議会のみでは進められず、例えば、農業、道路、教育、保健といった各セクターの県事務所（中央省庁の出先機関）との連携が不可欠になります。セクター事務所は、“エンド・ユーザー”機関として、後々には施設の管理主体となり、職員の配置を行う重要なプレイヤーとなります。施設計画の最終的な確定に際しては、県議会がセクター事務所代表に働きかけて計画内容の最終確認を両者で行いました。これらの連携は、本来あるべきものですが、県議会では、これまで十分に行われてきませんでした。復興パイロットプロジェクトの実施を通じて、県議会は、コミュニティからくみ上げた多様なニーズを、様々なセクターと協同してより良い計画策定を推進しています。



改修計画対象となる農村道路にて、施工計画のための現場調査を実施する県議会エンジニア、道路局エンジニアとアシスタント。これまで良好な連携・協力関係を構築してきた。



小学校の校舎改修工事予定地にて打合わせを行う教育科学技術省・県事務所代表、県議会のエンジニア、環境社会配慮担当およびモニタリング・評価担当。 (ポートロコ市内旧市街区)



コミュニティに最も近い保健医療施設である母子保健ポスト改修工事サイト。地元の名士が私財を投じ、内戦前の 1980 年代に着工した職員宿舎にレンガ積みが残る（写真手前）。

以上